

47 明治12年5月11日 菊池長閑

(注記1)  
第五号五月十一日

第四号三月廿二日出信書本月二日ニ達せり別段文部省より沙汰  
なくハ来年九月までニは帰朝之積之由来秋ハ如何様文部省より  
達ある共内願しても帰朝するへし来年と申義御祖母様ニ隱置候  
処此度おすミエ其事申来るを気なしに申上られ無抛申越之通為  
御知申上たる処大ニ御入り誠ニ当惑いたし何申も当年ハ八十二

被為成米田伯父様ハ八十まで終りたれハ御行末之短を思たる之御歎一時ハ慰上るとも御心中察上と真ニ恐入候既ニ我々てすら五十之関を越ゆれハ行先之事而已考居様ニ成たり況や御老人様にしてハ御尤之事なり不相變御壯建ニハ御暮し被遊ハ実ニ難有大慶致居候可相成ハ今年帰朝するものなれハ万事都合事なり

那珂通高先生去ル一日病死せり昨日委敷事お波より報知あり一日ニ牛蔵御門内ニ雅楽之会ありて家内引連見物ニ行帰リ懸神楽坂にて昼支度一先家ニ帰り先生一人出直し岡山某ニ参り漸徳利にて酒二本計り呑と倒れたる儘事切れたる由大即中風と思はれ候真ニ驚歎之至リニ候通世ハ千葉県ニ寄留なれハ家内之狼狽

(注記2) 思ひやられ候年来苦心修業之程追々天下ニ顕れ可申処未た半も顯はれましく当人老人之不幸のミニあらず天下之不幸残念至極

なり年ハ我等と同年なれと我か如き弱質ニあらず今名を挙るの最中なるに呉々も残念也貴様も帰朝之期漸一ヶ年にして此不幸なる別而残念ニ可存と察入候お波も里と心得専ら力ニいたし居処大入りと申来候先生エ之御饌料我等之外ニ貴様より五円備候

(注記3) 事ニお波まで申遣候遠方ニ無之ハ相談取計可申ニ中ニ返事間ニ不合故右之通ニ取計候四日ニ春山ニ埋葬いたし候趣ニ候梅桜之花落梨花最中也当地之博覽会昨年ハ遙ニ出品減淋敷且月を驚かしへき物なし

武夫殿

長閑

尚以一條基緒此節当地ニ下り居今度ハ秋までも居るやニ相聞存候

〔注記①〕横文記載之書願袋残り三枚ニ成候間早々遣し可申候

〔注記②〕同年輩に不幸あることに帰朝の遅を待兼る也察へし

〔注記③〕新聞らしき画入之書一枚去ル七日ニ達し添翰も無之候へは趣意不分明なれとも其地之新聞ヲ歴と遣したるものと存候

(封筒表)

「米田ボストン府 (消印3)

菊池 武夫 殿

(武夫注記1)

(消印2)

(消印4)

(武夫注記2)

(消印1)

(封筒裏)

「日本岩手県陸中国盛岡

外加賀野八十六番

菊池 長閑

(消印5)

無事

五月十一日発

(武夫注記1)

「Mr. T. Kikuch

c/o Gilbert Strwood & Co.

14 Merchant Exchange

Boston Mass. U. S. A

(武夫注記2)

「Ans'd」

(紙目<sup>1</sup>)  
「親王・岩井・尾・11 録」  
(紙目<sup>2</sup>)  
「TOKEI. 17 MAY JAPAN」  
(紙目<sup>3</sup>)  
「YOKOHAMA MAY 31 1879」  
(紙目<sup>4</sup>)  
「REC'D IN BOSTON MASS. JUN 24 10 A. M.」  
(紙目<sup>5</sup>)  
「SAN FRANCISCO PAID ALL JUN 17」